

第4学年 国語

第4学年の学習到達目標

- (1) 相手や目的に応じ、調べた事について、筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。
- (2) 相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。
- (3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

第4学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	一 物語をくふうして音読しよう こわれた千の楽器	●場面の様子や人物の気持ちを想像し、想像したことが聞き手に伝わるように工夫して声に出して読む。	○場面の様子や人物の気持ちを想像しながら声に出して読む。 [速さと間の取り方]
	心の動きを文章に書こう	●気持ちが伝わるように工夫して文章を書く。	○気持ちを表す言葉を工夫して、心が動いた部分を詳しく書く。
	二 だん落のつながりをとらえながら読もう ヤドカリとイソギンチャク	●段落相互の関係を考え、書かれていることを正しく読み取る。	○段落相互の結び付きを考えながら、内容を正確に読み取る。
	わたしが選んだ今月のニュース	●出来事を分かりやすく報告する文章を書く。	○伝える大事な事柄を知り、身の回りの出来事を伝える文章を書く。
	三 人物の様子や気持ちを考えながら読もう 走れ	●中心となる人物に気を付けて、様子や気持ちを考えながら読む。	○人物の性格や気持ちの変化を読み取る。
	四 目的による表し方のちがいを考えよう 広告と説明書を読みくらべよう	●目的による表し方の違いを読み取る。	○広告と説明書のそれぞれ目的と特徴を分かりやすくまとめ、目的による表し方の違いを確かめる。
	わたしの考えたこと	●伝えたいことの中心を明確にし、文章の組み立てを考えて書く。	○考えたことやそのきっかけになった出来事、考えた理由等を短い文に書き、文章の組み立てを考える。
	「ことわざブック」を作ろう	●ことわざや故事成語について知り、ことわざの意味を理解して使う。	○ことわざの意味を辞書等で調べ、いろいろなことわざを集める。 ○「ことわざブック」を作る。「いろはかるた」について知る。
	詩を読もう ふしぎ よかったなあ	●場面の様子を思い浮かべながら、詩を声に出して読む。	○情景や作者の思いを考えながら、詩を読む。
	「今の自分」を話します	●伝えたいことをはっきりさせ、材料を選んで話す。自分と比べながら聞く。	○中心を決めて材料を選び組み立てメモを作りスピーチ原稿を書く。 ○スピーチメモをもとに、グループでスピーチの練習をする。
お願いやお礼の手紙を書こう	●目的に合わせて書くことを選び、依頼状や礼状などの手紙を書く。	○形式をふまえて、相手に応じた言葉遣いで手紙を書く。	
後期	一 人物の気持ちの変化を考えて読もう ごんぎつね	●場面の移り変わりや人物の気持ちの変化をとらえ、心に強く残ったことを考える。	○場面と場面の関係に注意し、人物の気持ちの変化を想像して読む。 ○同じ作者の本を読む。(読書)
	連詩にちょうせんしよう	●言葉から想像を広げて、詩を作る。	○言葉集めを行って詩を作るための練習をし、題を決めて連詩を作る。
	二 暮らしの中の世界について調べよう 暮らしの中の和と洋	●「和」と「洋」の対比に注意して文章の要点を読み取り、暮らしの中にある日本と外国の文化について考える。	○考えたことや調べて分かったことをグループやクラスで話し合う。
	みんなで話し合っ	●話し合いの基本的な進め方を知り、司会を中心にそれぞれの役割を果たしながら話し合う。	○話し合いの進め方と司会の役割について考え、交代で司会をしながらグループで話し合いをする。
	三 取材したことをもとに学級新聞を作ろう みんなで新聞を作ろう	●取材したことを整理して、分かりやすい記事を書く。読み手の興味をひく書き方を工夫する。	○新聞の形式や特徴を知り、グループで新聞を作る。
	四 家族やふるさとを思う心をえがいた本を読もう 世界一美しいぼくの村	●人物の気持ちや場面の様子に注意して、物語の出来事の流れを読み取るとともに、読んだ本についての感想を伝え合う。	○出来事の流れを読み取り、人物の心情について考える。 ○愛の心を描いた本を読んで紹介する。(読書)

後期	「百人一首」を声に出して読んでみよう	●短歌を声に出して読んで、言葉の響きやリズムを感じ、情景を思い浮かべる。	○「百人一首かるた」の遊び方を知り、選んだ十首で実際に遊ぶ。
	目的に合わせて書こう	●伝えたい事に合わせて資料を選び、伝える内容や形式を考え文章を書く。	○学校新聞の記事から、付け加える資料を選んで文章の続きを書く。
	五 調べたことをポスター発表で報告しよう 報告します、みんなの生活	●調べたことを整理して、ポスターを使いながら順序よく報告する。	○グループでアンケートを行い、結果から分かったことを整理してポスターを作り、発表する。
	六 わたしたちの生活とロボットについて考えよう 「ゆめのロボット」を作る	●筆者の考えがどんな言葉で表されているかに注意して読み、文章を読んで考えたことを理由や例を挙げて書く。	○インタビュー記事を読み、筆者の考えや願いを読み取り、筆者の考えを参考にして自分にとっての「夢のロボット」について書く。
	「十さいのわたし」文集を作ろう	●1年間の思い出や未来の自分への手紙を書き、文集にまとめる。	○1年間に書いた文章と新たに書いた文章に、表紙や目次を加えて、「十さいのわたし」文集を作る。
	七 様子が分かるように音読げきをしよう 木竜うるし(人形げき)	●場面の様子や人物の気持ちが伝わるように、工夫して音読劇をする。	○場面ごとに人物の行動や会話から人物像や心情を読み取る。 ○「木竜うるし」を物語に書き換え、戯曲と物語の違いを確かめる。

評価の観点・方法

<p>(1) 評価の観点</p> <p>【国語への関心・意欲・態度】 国語に対する関心を持ち、進んで話し合ったり、適切に書いたり、読書の範囲を広げたりしようとしている。</p> <p>【話す・聞く能力】 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたりしている。</p> <p>【書く能力】 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書いている。</p> <p>【読む能力】 目的に応じ、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読んでいる。</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】 音声、文字、語句、文や文章、言葉遣いなどの国語についての基礎的な事項について理解している。</p>	<p>(2) 評価の方法</p> <p>① ペーパーテストだけでなく、日常の学習の様子、発言、ノート、作文・日記、疑問・願いなどから多面的に評価します。</p> <p>② 自己評価や相互評価など、多様な評価方法を取り入れ、指導に生かしていきます。</p>
---	---

特色ある学習方法

<p>(1) 関心・意欲を引き出すために、コンピュータを活用したり、ゲームやクイズなどの活動を取り入れたりします。</p> <p>(2) 朝の読書タイムを活用して、心を広げる読書活動を進めます。</p> <p>(3) 劇や新聞作りなどの表現活動に取り組み、いろいろな場面で発表していきます。</p> <p>(4) 調べ学習など児童が自分で考え、学習していく活動を重視し、総合的な学習の時間をはじめ他の学習活動とも関連づけながら進めます。</p> <p>(5) 聞く・話す・読む・書くという基礎的な力を身に付けるために、目標を重点化し、繰り返しの学習を積み上げたり、個別学習を取り入れたりしながら個々の実態に合わせて進めます。</p>
--

使用教材等

<p>○ 教科書 「新しい国語4年」(東京書籍)</p> <p>○ 漢字ドリル ○ 国語辞典、漢字辞典</p> <p>○ CDの活用 目的に応じて相手と伝え合う力は、これからますます必要になります。効果的な話し方や読み方を具体的に示すことによって、個々の表現活動を工夫していく手がかかりとなります。</p> <p>○ 関連図書の活用 教科書教材と関連付け、同じ作者の他作品や類似のテーマの作品を取り入れていくことで、自分の考えをより深めたり、読書活動を広げたりします。調べ学習では、学校図書館を軸に、自主的に課題を追究できる力へつなげます。</p>
--

留意事項

<p>(1) 家庭での音読にご協力をお願いします。 文章を正しくすらすら読めることは内容理解につながります。毎日の課題として音読を出しますので、聞いてあげてください。そして、家族団らんの時間にお子さまの伸びを話し合ってください。</p> <p>(2) 漢字学習に根気よく取り組めるように支援をお願いします。 中学年は、新しく学習する漢字の量がとても多く漢字嫌いの子が増える時期でもあります。楽しく、やる気を持って取り組める工夫をしていきますが、こつこつ丁寧に取り組むことが何よりも大切です。</p>
